

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 浅川 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

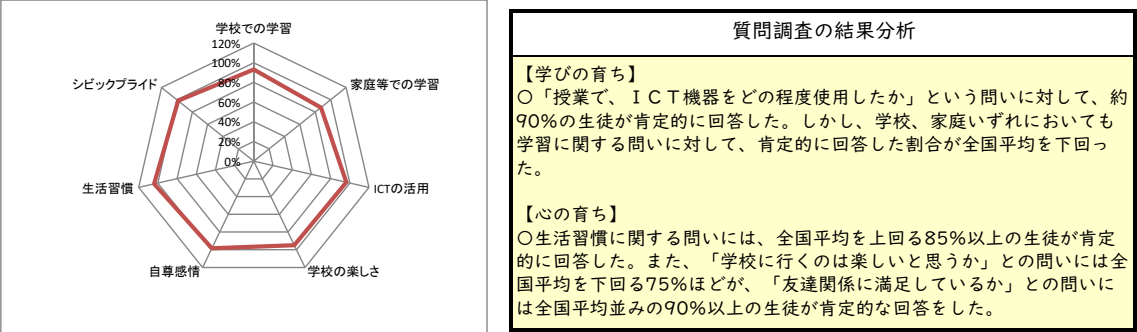
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	半数以上の項目で平均正答率が全国平均を上回ったが、思考・判断・表現の観点の記述式の問題では正答率が低く、無回答率が高いという結果となった。また、漢字における正答率は全国平均を上回ったが、無回答率も高かった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる問題	上回っている
	努力が必要な問題	・話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	16問中14問で無回答率が全国平均を上回った。思考・判断・表現の観点の記述式の問題では、正答率が高いが無回答率が30%を超えた。また、全国正答率が90%を超える知識・技能の観点の短答式の問題で、全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる問題	上回っている
	努力が必要な問題	・簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

- ・学力調査では、国語科、数学科ともに昨年度と同様に本校の正答率が全国平均を上回ったが、選択式でない問題で無回答率が高いことが明らかとなった。授業では個に応じた学習の場面や、自分の考えや意見を表現する場面を設定し、ブラッシュアップし合う協働的な学びができる学習環境づくりを進める必要がある。
- ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習は、学校から指示された課題とは別に、自分に必要な学習を進める大切な時間であるということを、学校と家庭が共通認識し、自ら学ぶ習慣が定着するよう啓発する。
 - ・個別最適な学習が効率的にできるドリルアプリの活用を積極的に推進する。